

時代小説という エンターテインメント をテーマから楽しむ。

あなたの1冊に出会えるかも？

8月ラインナップ

テーマ	書籍名	著者	読書ナビ
本能寺の変	信長殺し、徳川家康	八切止夫	本能寺の変、仕掛けたのは明智ではない！その謎解きはここに
	鬼と人と 上・下	堺屋太一	信長は伝統の破壊者として描かれ、光秀は人としてそれに抵抗する人物として位置付けられる
	反逆 上・下	遠藤周作	自らが神になろうとした信長に対し、人として絶対的に立ち向かう光秀を描く
	本能寺 上・下	池宮彰一郎	卓越した才を誇る家臣の明智光秀や木下藤吉郎の理解さえ拒み、孤高に君臨する主君信長。その心奥に潜む壮絶な精神と雄大な構想に迫る画期的歴史長編。
刃傷松の廊下	赤穂浪士 上・下	大仏次郎	「もっともらしい理屈や意見は平穩無事の時のことだ。いざとなると人間は卑怯か卑怯でないかに分かれる。なまじ知恵があったり学問のある上層の者が事変に無力になるのはそのためだ」。大石のつぶやきはそのまま現代にも通じる。
	赤穂浪士伝奇	志村有弘	討ち入りから300年、不滅の国民劇「忠臣蔵」を彩る義士像を描くアンソロジー。小山竜太郎、直木三十五、菊池寛等、全6編を収録。
	吉良上野の立場	菊池寛	悪役吉良上野介の人物像を180度転換して描いた作品
	吉良忠臣蔵	森村誠一	江戸城中・松の廊下の刃傷事件の背後には、冷酷無比な翼が張りめぐらされていた。浅野家・吉良家、上杉家、そして將軍綱吉の側用人・柳沢吉保に、赤穂藩家老・大石内蔵助。権謀術数渦巻くパワーゲームを迫力豊かに描く。
	吉良の言い分	岳真也	松の廊下の刃傷沙汰は、吉良家の台頭をおそれた時の権力者、柳沢吉保の陰謀か？
	峠の群像 上・中・下	堺屋太一	赤穂浪士と吉良上野介の所領の饗庭藩との間に製塩業をめぐる経済的な確執があったとして描く
	四十七人の刺客	池宮彰一郎	刃傷の原因に触れず、討ち入りの内蔵助と色部又四郎との謀略戦として描く
	その日の吉良上野介		浅野の「遺恨」とは何だったのか？ 江戸城中での刃傷の真因が、吉良の脳裡に次第に浮かび上がる。
	忍法忠臣蔵	山田風太郎	殿中での吉良への刃傷沙汰により、浅野家は断絶され、赤穂浪士は仇討の機を窺う。一方、吉良方が頼りとする上杉家では、家老の千坂兵部が女忍者を用い、仇討防止に色仕掛けで浪士の骨抜きを企む。
島原の乱	葬神	宗方翔	神の子と讃えられる天草四郎の存在に疑問を抱く右衛門作の視点から島原の乱を捉える
	傾国伝	伴野郎	明の滅亡と島原の乱を関連付けた異色作
	寛永の楔	加来耕三	乱の背後には幕府転覆を図る様々な意思があったとした内容
	大帝の剣 1～5	夢枕獏	異形の剣を背負った万源九郎を主人公に、甦った天草四郎や服部半蔵、宮本武蔵らが入り乱れた作品
享保の改革	御庭番十七家	南原幹雄	御庭番創設時の各家が多彩な任務を遂行する
	幕府隠密帳		幕府隠密の座をめぐって、お庭番と伊賀、甲賀が暗躍を繰り広げる
	鴻池一族の野望		大名貸しによる経済支配を目論む鴻池一族とその野望に立ち向う与力の戦いを通して、江戸中期の経済問題を浮かび上がらせた作品
	尾張春風伝 上・下	清水義範	宗春を時代を先取りしすぎた天才として、吉宗をライバルの視点から中央の政策を地方の側から、二重の意味で相対比することで、新しい歴史認識を示した。
	御町見役 うずら伝右衛門	東郷隆	宗春のテーマパーク建造計画の責任者に抜擢された伝右衛門の活躍を描いた作品
桜田門外の変	最後の將軍	司馬遼太郎	その英傑ぶりを謳われながらも幕府を終焉させねばならなかった十五代將軍の数奇な生涯を描く。
	桜田門外の変	吉村昭	薩摩の側から事件を見据えた作品
	井伊大老暗殺	童門冬二	水戸と薩摩の同盟に着目し、志士たちの理念の違いを明らかにしながら事件に光をあてた
	花の生涯 上・下	舟橋聖一	激動期を生きた大老の人となりを信念と愛の中から描き出した
	幕末暗号戦争	永井義男	幕末の幕府と水戸藩の確執を暗号をめぐる謀略戦として描く
	萩大老	早瀬詠一郎	黒船来航に揺れる安政年間、井伊大老は彦根からお抱え能役者を呼び寄せた。武家の式楽である能によりこの国を鼓舞するためだった。「桜田門外」前夜を絢爛と描き、指導者の資質と芸能の本質に迫る。

龍馬暗殺	龍馬残影	津本 陽	慶応三年四月に起こった明光丸というは丸の衝突沈没事故をめぐって、いろは丸側の代表として交渉にあたった龍馬の姿をとおして青春の志を抱いた無私のひとを描く
	竜馬を斬った男	早乙女貢	見廻組隊長、佐々木只三郎を主人公に、それを取り巻く人間模様を描きながら暗殺の真相を只三郎の人間性が活写される。
	闇の龍馬	中津文彦	慶応3年、坂本竜馬は凶刃に倒れた。彼の死で歴史を変えたのは誰だったのか？ 恐るべき「闇」の指令者とは？ 歴史の暗部に消えさろうとする真実に、竜馬に私淑し、竜馬創設の「海援隊」で行動を共にした大外交家・陸奥宗光が迫る!
	誰が竜馬を殺したか	三好徹	幕末に起こった多くの事件の意外なつながりから龍馬暗殺の真相を追究している。
川中島の合戦	武田信玄 1～4	新田次郎	「武田信玄」は、信玄の死によって完結するが、この続編に「武田勝頼」さらに連載途中に急逝し中絶した「大久保長安」へと続く。新田次郎のライフワーク作品である。
	武田信玄 上・中・下	津本 陽	武田騎馬軍団の比類なき実力と信玄の決断一。嫡子である自分を疎んじて弟信繁を寵愛する父信虎を駿河に追放したのは、信玄二十一歳の時。
	風林火山	井上靖	信玄への仇討ちを誓う由布姫と、姫への思慕を胸に川中島の決戦に散りゆく山本勘助。井上文学の金字塔にして、戦国ロマン大河の決定版。
長篠の合戦	武田勝頼 1～4	新田次郎	武将勝頼は父武田信玄の後を継いだ。ところが武田の御親類衆や信玄が育てた家臣団は信玄の遺言をたてに、なかなか勝頼に実権を与えなかった。しかし世継ぎの式を経て若統領と認められた勝頼は、ついに織田軍と一戦を交える。
関が原の合戦	小説 石田三成	童門冬二	秀吉亡き後、豊臣政権の外交・経済・財務政策の立案・遂行に偉才を発揮した、近江出身の実務派・経済官僚石田三成をユニークな視点で描いた
	小説 徳川家康 上・下		もし徳川家康が本当に源氏だったらとの想定のもと、新田氏と松平家との関係にしぼって追及。さらに、「不遇な時代の忍耐こそ将来の大成の鍵である」という、後に天下を取らせることになる人生観のルーツを探る家康の前史。*
	影武者徳川家康	隆慶一郎	慶長五年関ヶ原。家康は島左近配下の武田忍びに暗殺された!家康の死が洩れると士気に影響する。このいくさに敗れては徳川家による天下統一もない。徳川陣営は苦肉の策として、影武者・世良田二郎三郎を家康に仕立てた。しかし、
ビジュアル系	時代劇六大スター		市川右太衛門、長谷川一夫、阪東妻三郎など、時代劇を彩った6人のスターのスチールを解説付きで紹介する。
	名字で読む 歴史・時代小説		数々の時代小説のヒーローたちを、氏姓でたどった「なるほど名字学」。
	鬼平を極める		鬼平ワールドにはハマるためのハンドブックだ。徹底したキャラクター紹介に、“鬼平の味”や“ゆかりの地”の解説。
	鬼平を極めるⅡ		
	反逆のパッション、時代劇のモダニズム!		大河内伝次郎から中村錦之助まで、スターとともにアクションとエモーションの王国を築いた巨匠の仕事を一冊に集成
	実録 テレビ時代劇史		世代を超えた人気を保つテレビ時代劇の、草分けから今日まで40余年間の盛衰記。